

『乳幼児期からの人権保育～2歳の生活から考える～』

パンフレット・カード 活用方法

2020年3月

2019年度人権保育プロジェクトでは、2歳児の子どもの姿に着目し、研究の成果をパンフレットとカードにまとめました。

パンフレット・カードの活用方法は園・所での学習会、保護者との懇談、個人での研修等、みなさんが使いやすい方法でご活用いただければと思います。

ここでは、園・所での学習会を例に、活用方法の一例を掲載することで、よりみなさんに使っていただきやすくなればと思っています。

2019年度人権保育プロジェクト

パンフレット・カードの活用例

※複数人での学習会を想定しています。

- ①研修のテーマ、目的、流れ等を共有する。
- ②3～4人のグループに分かれる。
- ③カードを見ながら、子どもへの対応の仕方や声のかけ方について普段の保育の様子を出し合う。
- ④それぞれのカードで出し合われたことを全体で共有する。
- ⑤パンフレットを読み、グループでそれぞれ感想を出し合う。
- ⑥パンフレットを読んで出し合われた感想を全体で共有する。
- ⑦これからも園・所全体で大切にしていくこと、個人で大切にしていくことを確認する。



次のページでは、プロジェクトのメンバーが実際にパンフレットを活用した方法を紹介します！



プロジェクトのメンバーが園での学習会で実際に活用した方法を紹介します！



1. 園での悩みや課題を共有する。

乳幼児期の行動は、周囲のおとなのかかわりや愛着形成が大切であることを確認する。

メンバーの1人として、プロジェクトの目的やパンフレットの作成過程も伝えました。

2. 5人程度のグループに分かれ、じっくりパンフレットを読む。

全職員が参加できるように、2日間に分かれて行いました。

3. グループで感じたこと、反省したこと、これからこうしていきたいと感じたことなどを素直に出し合う。

15分程度を予定していましたが、たくさん意見が出たので30分ほど時間を取りました。

4. グループで出し合ったことをグループごとに発表し、交流する。

気づきや反省点だけでなく、人権保育で大切にしたい内容も交流することができ、よい機会となりました。

《学習会に参加した職員の感想》

- ◆子どもたちの危険な行為に目がいってしまい、「ケガをしないように」と安全策を考えてしまいがちでした。そうではなく、「この子がやりたいことに寄り添っていくにはどうしたらいいんだろう?」「楽しい気もちになるにはどうしたらいいんだろう?」と普段からその子との一瞬一瞬の時間を大切にしていきたいと感じました。
- ◆子どもたちの気もちを聴いていくことの大切さに気づくことができました。おとなには良くないと感じる行為でも、その子なりの理由があるということを考えていきたいと思いません。
- ◆保育士である前に、一人の人間として、一人ひとりの子どもにどんな気もちで寄り添うか…という大事なことについて考えることができました。
- ◆「〇〇したらダメ」ではなくて、「どうしたの?」「〇〇するにはどうしたらいいかな?」など、肯定的な言葉かけができる保育士でありたいと思いました。
- ◆今回の資料のすべてが今の私が必要としているもので、「あーそうだなあ」「自分もこう言っていることがあるなあ」と自分自身をふり返ることができました。どうしても「時間内に」「計画的に」と、おとなの都合や型にはめてしまいがちですが、「この子のためにはどうすべき?」と考えることが大切なんだと思いました。